

JENESYS2021 日インドネシア・オンライン交流 (日本文化・技術の体験)の記録

1. 概要

【目的】日本に関心を有するインドネシアの学生が、日本の文化、産業、行政等についての知識を深める講義、視察、日本人との交流プログラムに参加し、その魅力について多くの人と共有することで、日本とインドネシア間の相互理解の向上と友好関係の強化を主目的に、本プログラムを実施しました。



【参加者】インドネシアの高校生・専門学校生・大学生等 計 67 名

【訪問地】京都府、愛知県、東京都、北海道、高知県、大阪府、奈良県

【日程】

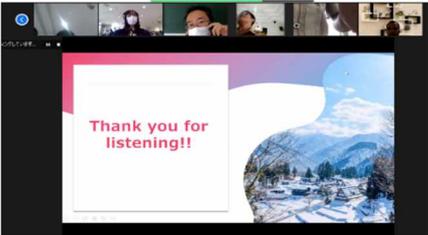
日付 訪問地	内容	参加者の質問・反応
以下 2 日間の参加人数：48 名（他のプログラムと合同で実施）		
2021 年 10 月 6 日 京都府	【ウェビナー・質疑応答】 友好都市講義 1. 「一般社団法人てこらぼの事業概要」 講師：一般社団法人てこらぼ代表理事 山口 洋典氏 2. 「インドネシア関連のこれまでの活動まとめ」 講師：本藍染雅織工房代表 中西 秀典氏 3. 質疑応答	講師より、京都府とジョグジャカルタ特別州の友好都市関係をきっかけに始まった、ジョグジャカルタ野蚕を用いた織物の復興活動支援について紹介を受けました。 講義を受け、製品の販売予測やマーケティング手法に関する質問が寄せられました。 また、「インドネシアで、バティック・シャツがフォーマル服であることについて日本人はどう思うか」等、日本人が持つバティックへの印象に関する意見もありました。
2021 年 12 月 13 日 愛知県	【学校交流】 名古屋大学教育学部附属高等学校 23 名 1. 日本、学校、J-POP・アニメの紹介 2. インドネシア学校紹介 3. 少人数グループ別での交流会の実施 4. オンラインゲーム大会 5. インドネシア 歌と踊りの披露	名古屋大学教育学部附属高校の学生が司会を務め、両校の発表、少人数グループ交流、まとめの発表まで進行していただきました。インドネシアのネット接続環境が悪い中、様子をうかがいながら臨機応変に対応してくれました。日本側の発表では画像や動画を使い分かりやすく、且つとても興味を引くような内容でパワーポイントを 3 つ用意してくれました。インドネシア側もパ

		<p>ワーポイントに加え歌とダンスを披露いただき場が暖かくなりました。</p> <p>少人数グループ交流では、日本側主導で自己紹介、好きな食べ物、将来の夢などを発表しあっていただきました。ネット接続の関係で会話がしにくい場面も多々ありましたが、何度も声を掛け合いながら交流していただき、特に好きな食べ物の話では楽しそうにお互いの国の料理を紹介されました。また、グループによってはオンラインゲームも実施していただき盛り上がっていました。</p>
<p>本プログラム（参加人数 12 名）以下 6 日間の参加人数：19 名（以下のプログラムは他のプログラムと合同で実施）</p>		
<p>2022 年 3 月 2 日～</p>	<p>【動画視聴】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外務省挨拶 2. 日本文化理解（京都） 3. 愛知の魅力～産業、最先端技術～ 4. 日本語学習 	<p>プログラムへの理解を深めるため、参加者は日本やプログラムに関する動画を視聴してから参加しました。</p>
<p>2022 年 3 月 9 日 東京都</p>	<p>【オリエンテーション】【ウェビナー・質疑応答】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ① 開会・挨拶 在インドネシア日本国大使館 広報文化部 二等書記官 磯村 真太郎氏 ② JENESYS 概要説明 ③ プログラム内容、ミッション説明 2. 日本理解講義 「Japan Today」 講師：SIMA 国際経営研究所 所長 木村 秀夫氏 <ol style="list-style-type: none"> ① 講義 ② 質疑応答 ③ 集合写真撮影 3. グループオリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介、グループリーダー、副リーダーの選出 	<p>プログラムにおける参加者の役割・ミッションについての説明を熱心に聴講していました。講義中、頷いたりして熱心に聴講していました。また、メモをとっている参加者も多数おり、とても真剣な様子でした。質疑応答では、「日本では高齢化が問題になっているが、政府はどのような対策を行っているか」等の質問がありました。その他、日本について、優れたアニメやゲームが身近な存在であったことその他、「桜が美しい国という程度の知識でしたが、歴史、文化、戦後の経済発展などの概要を知ることができた」との意見がありました。</p>

	<p>② 日程紹介</p> <p>4. アクション・プラン概要説明</p>	
<p>2022年 3月10日 北海道小樽市</p>	<p>【自治体視察】</p> <p>1. 小樽市魅力発見バーチャルツアー</p> <p>① 小樽堺町通り</p> <p>② ドローンを用いての小樽海岸エリアツアー</p> <p>③ 小樽運河</p> <p>2. 集合写真撮影</p> <p>3. グループごとの振り返り</p>	<p>案内人の話のテンポが良く豊富な情報が紹介され、参加者は熱心に聞き入っていました。また、所々のクイズでは参加者が興味深く参加し、ツアー中には、小樽市への行き方、小樽市の最も美しい季節、名物料理、市民の職業やニシン漁について、たくさんの質問や感想がありました。</p>
<p>2022年 3月11日 高知県</p>	<p>【学校交流】</p> <p>学校法人土佐塾学園 土佐塾高等学校（高知県）</p> <p>1. 土佐塾高等学校生徒によるプレゼンテーション</p> <p>① 学校紹介</p> <p>② 食べ物、文化紹介</p> <p>③ 日本舞踊披露</p> <p>2. インドネシア・パプア州の高校生によるプレゼンテーション</p> <p>① インドネシア紹介</p> <p>② 歌の披露</p> <p>3. 集合写真撮影</p> <p>4. グループごとの振り返り</p>	<p>高校生同士すぐに打ち解け、お互いの発表に興味深い様子で大いに盛り上がっていました。画面越しではありながらも、ジェスチャーを交えて積極的に楽しそうに交流している様子が印象的でした。インドネシア側参加者は、日本の学校で授業にタブレットを使用していることに感銘を受けていました。日本側参加者による日本舞踊の披露にもインドネシア側参加者は感動した様子で、「披露された舞踊にはどのような物語があるのか」といった質問や、「ジェスチャー付き日本料理作り方紹介が面白かった」などの感想がありました。</p>
<p>2022年 3月12日 大阪府、奈良県</p>	<p>【ホームビジット交流】</p> <p>1. 地域紹介（大阪府、奈良県）</p> <p>2. ホストファミリー紹介（4家庭）</p> <p>3. ホームビジット交流</p> <p>4. 代表家庭、参加者による挨拶</p> <p>5. 集合写真撮影</p> <p>6. 振り返り</p>	<p>短時間にもかかわらず、参加者もホストファミリーもとても楽しそうに交流していました。クイズを交えた家庭内ツアーは、日本人の日常生活の理解に大変役立ち、インドネシアにない日本独自のものに参加者は強く興味を示していました。家庭料理や書道、着物などの日本文化についても紹介・交流し、参加者やホストファミリーは感慨深い様子でした。</p>
<p>2022年 3月14日 大阪府</p>	<p>【ワークショップ】</p> <p>1. 全体説明</p> <p>2. グループワーク</p> <p>① 報告会プレゼンテーション資料作成</p>	<p>事前にメンバー間で意見をまとめており、スムーズに発表準備を進めました。</p>

	② 発表練習 ③ アンケート回答	
2022年 3月15日 東京都	【報告会】 1. 開会 2. グループ別発表 3. 講評 4. JICE からのお知らせ、閉会	当日、参加者が接続していたパプア州では大雨となり、現地の学校に集まるまで時間を要しましたが、完成度の高いプレゼンテーションが発表されました。

2. 記録写真

			
2021年10月6日【ウェビナー・質疑応答】 一般社団法人てこらぼ	2021年10月6日【ウェビナー・質疑応答】 本藍染雅織工房のインドネシア関連事業		
2021年10月6日【ウェビナー・質疑応答】 バティックに着目した理由を尋ねる様子	2021年10月6日【ウェビナー・質疑応答】 集合写真		
2021年12月13日【学校交流】 名古屋大学教育学部附属高校の発表	2021年12月13日【学校交流】 グループ別の発表・意見交換		
2021年12月13日【学校交流】 インドネシア青年による日本の歌の披露	2021年12月13日【学校交流】 集合写真		



2022年3月9日【オリエンテーション】



2022年3月9日【日本理解講義・質疑応答】



2022年3月10日【自治体視察】小樽堺町通りをガイドする案内人と見入る参加者



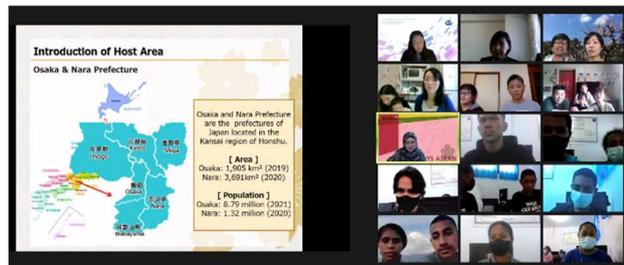
2022年3月10日【自治体視察】ドローンで小樽海岸を望む



2022年3月11日【学校交流】土佐塾高等学校生徒によるプレゼンテーション



2022年3月11日【学校交流】インドネシア高校生によるプレゼンテーション



2022年3月12日【ホームビジット交流】地域紹介の様子



2022年3月12日【ホームビジット交流】集合写真



2022年3月15日【報告会】アクション・プランの発表



2022年3月15日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 参加大学生

このプログラムは大変面白かったです。京都とジョグジャカルタが長く友好都市であったことなど初めて知ることが多かったです。今後も継続し、日本—インドネシア間の友好関係がさらに緊密になることを願います。

◆ 参加社会人

今日オンラインプログラムに参加できてよかったです。講師のお二人には、日本でバティックを広めてくださっていることに感謝の気持ちを伝えたいです。日本で今後もバティックが受け入れられ、日本人に好まれる物であってほしいです。

◆ 参加高校生

とても面白いプログラムでした。交換留学生として日本に行きたいです。日本で勉強して、日本の文化も学びたいです。

◆ 参加高校生

JENESYS オンラインプログラムに参加する機会を与えていただき、大変感謝しています。私には日本に留学するという夢があります。このプログラムのパプア州、西パプア州の代表に選ばれたと知らせを聞いた時、とても驚き、本当に嬉しかったです。今年は残念ながらオンラインで行われることを知りましたが、モチベーションは変わりませんでした。いつの日か実際に日本を訪れることができると信じています。5日間にわたるこのプログラムから多くのことを得ることができました。例えば、新しい経験や、日本に関する幅広い知識、新しい友達、ホストファミリーなど、親切な通訳担当のコーディネーターにも出会うことができました。このプログラムによって、様々な視野を広げ、自身に変化を起こし、学びを他の人と共有するモチベーションを上げることができました。これからも JENESYS プログラムを通して若い世代に将来の変化を起こすモチベーションを与え続けてくれることを望みます。また、いつの日か日本への交換留学に参加できる機会を願っております。

◆ 参加高校生

私にとって、このプログラムを通じて日本人と交流できたことが大変印象に残りました。それ以上に、多くを学ぶことができ、とてもやりがいのある経験をさせていただきました。この交流が続き、後に日本に訪問し、対面での学校交流が実現するよう願っています。

◆ 参加高校生

オンラインでも日本の多くのことを知ることができたため、このプログラムにとっても感銘を受けました。このようなプログラムへの参加機会を今後も増やしていただき、可能であれば日本に直接訪れることができるような交流プログラムの実施を願っております。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

現地の方々より熱心に質問をいただき、感謝しています。

◆ 講師

的確な問題点を捉えた質問を受け、講義をよく聞いてくださったと思いました。色々と JICE の皆さまのサポートを頂きました、感謝しております。ありがとうございました。

◆ ホストファミリー

日本を紹介する準備をしたことで、あらためて日本の良さを知ることができました。受け入れ先のインドネシアの高校生が、一生懸命日本語を話してくれたことに感動しました。

◆ ホストファミリー

何をするのか、（プログラムの流れを）子どもたちに考えてもらいました。終わってからとても楽しかったと言っていて貴重な経験だったと思います。

5. 参加者の対外発信

 <p>The image shows an Instagram post. The top part is a promotional graphic for the 'JENESYS Call for registration' online program for Indonesia, titled 'BATIK and Japan Blue'. It mentions a 'Friendship City Webinar' with Kyoto (京都) as the theme, dated October 6th, 2021, from 2:30pm to 4:00pm in Jakarta. The bottom part of the post is a text-based caption in Indonesian, expressing excitement about participating in the online class and mentioning the organizers, Bpk. Nakanishi and Bpk. Yamaguchi.</p>	 <p>The image shows a Facebook post from 'JICE's International Exchange Programs'. The text expresses gratitude for the opportunity and hopes for continued good relations between Yogyakarta and Kyoto. It mentions the event was held on October 6th, 2021, at the Japanese Embassy in Indonesia. Below the text is a screenshot of a Zoom meeting grid with many participants and a photo of a traditional Indonesian batik pattern.</p>
<p>2021年10月6日（Instagram） 「バティックとジャパブルー（藍染）」というテーマの JENESYS オンラインクラス（ウェビナー）に参加しました。インドネシア人のバティック愛が、講師お二人が日本人にバティックを紹介する情熱に負けませんように。</p>	<p>2021年10月6日（Facebook） このような機会を下さり、ありがとうございます。ジョグジャカルタと京都の良好な関係が続くことを願っています。</p>



hari ini merupakan hari pertama kegiatan jenesys exchange online program. Hari ini kita dikenalkan dengan hal2 mendasar tentang negara jepang, saya sebagai seorang pecinta negara jepang sangat bersemangat karena bisa mempelajari langsung tentang jepang dari penduduk asli jepang. mereka menunjukkan kondisi kota mereka yang luar biasa bersih. disana juga mereka sangat mempedulikan tentang kesehatan para masyarakatnya, bahkan disana tingkat penduduk dengan usia lansia tergolong bnyak. kami juga diperlihatkan makanan tradisional jepang yg sdh medunia, mereka juga memperlihatkan salah satu teknologi canggih mereka yaitu kereta modern yg sangat cepat. semua hal ini membuat sy sngt kagum dgn kemajuan dri negara jepang. sangat luar biasa sekali.
[#JENESYSEXCHANGEPROGRAM](#)
[#JIC](#)
[#BPECKIAKSELATAN](#)

2022年3月9日 (Instagram)

みなさん、こんにちは！まず初めに、磯村様から暖かい歓迎のお言葉をいただきました。木村秀夫先生の説明で、日本は少子化が進んでいるということがわかりました。日本が人口問題を抱えていることについて私はとても興味があります。その理由は、収入の面で自立できると感じている日本人女性がますます多くなっているからです。

2022年3月9日 (Facebook)

今日は JENESYS プログラムの初日。日本概要を学びました。日本が大好きな私は日本の事を直接日本人から教えていただき、とてもやる気ができました。日本の街並みが大変清潔であること、そして日本政府が国民の健康を大事にし、重要視していることもわかりました。そのため健康な高齢者数が多くなっています。海外でも有名な日本料理も紹介してもらいました。また、彼らの技術の進歩の証として高速で走れる新幹線を見せてくれました。これらすべてを総じて、私は日本という国に惚れ込んでいます。大変素晴らしいです。

6. 最終報告会でのアクション・プランの発表

❖ Table action plan at School in Papua

NO	Permasalahan	Tujuan	Nilai karakter yang di kembangkan	Kondisi awal	Target capai	Tahapan implementasi inovasi
1	Pendidikan karakter	Membuat setiap anak disiplin terhadap peraturan sekolah	Disiplin	Rata-rata kehadiran perminggu 80%	Kehadiran harus 100%	1. Mengapresiasi asi yang hadir 2. Menambah kuis bagi yang tertambat
2	Kurangnya fasilitas penunjang KBM	Menambah kekurangan yang ada		Sangat kurang	Sekolah yang berada dikampung terpencil	Mengajukan permohonan kepada pemerintah
3	Kurangnya eskul disekolah	Mengasah minat&bakat setiap anak sesuai dengan keterampilan masing-masing	Ekstrakurikuler	Eskul yang jarang dilakukan dan hanya 2	Tambahan Eskul dengan melihat kemampuan setiap anak-anak	Mengajak anak, melihat pentingnya kegiatan sekolah

課題 1：人格教育

- 目的：校則を規律良く守れるようにする
- 伸ばしたい価値：規律

- 現状：平均出席率 80%
- 具体的な目標：出席率 100%
- 改善のための段階：出席率の向上、遅刻者にクイズを出す

課題 2：自治体施設の欠如

- 目的：足りていないものを増やす
- 現状：大きく不足している
- 具体的な目標：過疎エリアにも学校を設立する
- 改善のための段階：政府に陳情する

課題 3：学校の課外活動（部活動）の不足

- 目的：生徒各個人の能力に合わせて才能や意欲を磨く
- 伸ばしたい価値：課外活動
- 現状：ほとんど行われず、2種類の部活動のみ存在
- 具体的な目標：子どもの能力に合わせて課外活動を増やす
- 改善のための段階：子どもに学校活動の重要性を直視するように働きかける

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター (JICE)